



No. 6 / 6 1

有脇小学校校長だより

2021・6・15



6月7日(月)5年生が田植えを行いました。学校応援団「稲作指導」のみなさん、市役所やJAの方を含め約15名の指導をいただきました。初めに「稲作指導」の方から植え方を教えていただき、子どもたちが5月10日に糶まきをした苗(管理等は稲作指導のみなさんにおまかせです)を植えていきました。子どもたちは一列に並んで、田んぼ(有脇小「みんなの田んぼ」)の約3分の1を手植えしました。残りはあっという間にGPS搭載の田植え機が植えてくれました。その違いを見たり体験したりすることとてもいい体験活動になりました。子どもたちは前方を向いて(途中からは後ろ向きに変わりました)田植えをしていました。これは、これから植えていく土壌を荒らさな



いためだそうですね。そんな細かい気遣いも、おいしいお米を育てる秘訣なんです。

# 子どもたちの命は教員が守る



6月14日（月）子どもたちが下校した後、現職教育として「救急法」の講習会を開きました。半田消防署北部出張所から講師をお招きしました。初めの約15分で心肺蘇生法、AEDの使い方を全員実践しました。その後「プールでの水泳の授業中に子どもが溺れて意識がない」という想定でシミュレーション訓練を実施しました。実際の授業を想定して、役割を決定し、体育館（午前中雨天だったため）で実施しました。いろいろな部分で不具合が発見されました。○今回刈谷に119番通報がかかってしまった（「半田市の有脇小学校」と言わなければいけない）○電話回線が1本しかないので最優先は119番通報○固定電話で消防へ連絡した後状況を説明するのは無理○プールには大人の人数が限られているので何を最優先するのか○他の子どもたちへの指示はだれが出しだれが引率するのか○他の職員への連絡はどうすれば効率がいいか等です。

信じたいワタチンのカ

今回（毎年実施している）のシミュレーションでも**キーポイントとなるツールは「携帯電話」と「AED」**でした。携帯電話は、子どもの様子や現在の状況を目の前で伝えることができます。これは救急車が現場に向かっている間に、救急隊が状況を知ることができます。ただ、携帯電話はすべて個人所有物で、プールにはもっていきません。AEDは水泳の授業の時はプールにもっていきますが、校舎等で事故が起こった場合は足らなくなってしまいます。有脇小学校は校舎とプールが離れていて、簡単には持ち運びできません。この2点は救急隊の講師の方からも指摘がありました。夏の水泳の時期だけでも「携帯電話」と「AED」のレンタルが必須であることを痛感しました。しかしその前に、有脇小学校では、コロナ対策を万全にし、まず事故を起こさない水泳指導を心がけ行っています。

**よかった点と問題点を共有しています**

